

<テーマ>

気候変動と国家の消失：モルディブが問いかける人類の選択

<講師>

駐日モルディブ共和国大使館
一等書記官/臨時代理大使

シャフラス ラシード 氏



<経歴>

モルディブ共和国外務省において10年以上の実務経験を有するキャリア外交官であり、現在は駐日モルディブ共和国大使館で臨時代理大使を務めており、モルディブ政府の国益を代表するとともに、日本との二国間協力の強化に尽力している。

2014年、アジア・中東・アフリカ局における事務官として外交官としてのキャリアを開始。その後、外務省内において上級事務官、儀典局課長補佐等の要職を歴任し、順調に昇進する。2022年7月、駐日モルディブ大使館に一等書記官として着任し、2023年12月より現職に執務中。

<学歴>

中国北京市に所在する中国外交学院にて国際関係学の修士号を、また、英国ハートフォードシャー大学にて政治学および国際関係学の学士号を取得している。これに加え、イスラマバード(パキスタン)の外交官研修アカデミーにて第26期ジュニア外交官コースを修了したほか、国際交流基金主催の日本語研修プログラム(大阪泉佐野市)および、スリランカのBIDTI (Bandaranaike International Diplomatic Training Institute：バンダラナヤケ国際外交官研修機関)にて外交・国際問題に関する集中講座を履修した。

日本モルディブ政策対話の過去3回を含む、重要な外交取り組みに積極的に貢献してきた。また、若者層および気候変動外交に対して深い関心と卓越した専門性を有し、COP26およびCOP27においては、グローバルユース声明の策定に寄与した。更に第16回国際青年会議(スコットランド グラスゴー開催)、第17回国際青年会議(エジプト シャルム・エル・シェイク開催)、およびLCOY Japan(東京開催)に参加するなど、国際的な若者主導の気候活動にも携わってきた。

現在、国際連合協会の枠組み内で気候・海洋部門の外交官、議員、コモンウェルスとの連携ワーキンググループの副議長を務めるとともに、ユースカウンシルの一員としても活動している。